

東日本大震災現地レポート

投稿者:「防災塾・だるま」樋口 誠

◆開催月日: 2011年5月12日(木)

◆開催時間: 15:00~17:30

◆開催場所: 緑区役所地階会議室

●荏本神奈川大学教授の報告



◆「専門家から見た津波被害の大きさは・・・」:地震が起こる断層の長さが300km~500km(スマトラ沖は1,000km)と長い範囲で発生した地震のメカニズムの説明と、海岸線を縦断して調査した現地報告がありました。

冒頭あいさつ:「わが身を守るのは自分である」ので、被災地の現状報告から、「災害への備えと対処」のヒントを得たい。

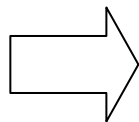


津田緑区長から、地震発生時直後の緊迫した状況と帰宅困難者の報国がありました。

●岩手県山田町出身者の佐々木さんの報国



◆祭りを楽しむ山田町民



◆今は無人のまちと化した。思い出の残像はどこに！
寒く、砂ぼこり、悪臭、焼跡の匂い、流材木の山



◆ボランティア

- ・救援物資の荷降ろし
- ・救援物資の配給(800名ほど)
- ・消石灰の荷降ろし
20kgの重さは堪えた
- ・地元の居住者および全国の支援者が対応した

◆まちの被害

- ・停電ながら、火災が発生、まちの半分を焼けつくした
- ・防潮堤(6.5m~7m)は無残に破壊された
- ・半島の付け根の施設では多数の死傷者が出た

◆実家

- ・多少高台にあり、床上浸水で免れた。
2週間後でも、家族は放心状態
実家の泥の清掃、近所の片づけを実施
- ・49日に合同慰霊祭 161名、親類の納骨
- ・神奈川大学スタッフに同行

◆感想

- ・津波で一瞬のうちに故郷の思い出ががれきとなった。
むなしい思いが佐々木さんの報告に満ち溢れていました
- ・山田町で漁師をしていて、横浜に避難した浦邊さんにも同席頂きました。5月26日に報告会を開きました
- ・緑区で初めての報告会で55名の参加がありました